



■キーパーソンに聞く

## 今、私が気になる技術

# お客様が発信するシグナルを聞き分けて それを製品やサービスに採用していく

### 主要ユーザーがヒトからモノへ

—はじめに、現在、ご担当されている業務についてお話しください。

**徳広** 当部署では、携帯電話やノートPCなどの端末を利用して“いつでも、どこでも、誰とでも”自由にアクセスすることができるユビキタス時代に向けた、ビジネス関連の端末や新たなインターネット接続サービスなどの開発に取り組んでいます。また現在は、携帯端末等の主要ユーザーは“ヒト”ですが、10年後の世界では、ヒトに代わって“モノ（機械）”が主要ユーザーになっているかもしれませんので、このようなシーンをイメージしながらプロダクトやサービスの開発に取り組んでいます。

—代表的なプロダクト&サービスをご紹介します。

**徳広** どこにいてもオフィスの仕事ができ、ビジネスシーンでの活用が進んでいる「ビジネス向け携帯電話」や「カード端末」。自宅でも外出先でも快適なインターネット環境を提供するインターネット接続サービス

#### ◆ M2501の主な特長

- ・ HSDPAをはじめ、W-CDMA、GSM、GPRSの各通信方式に対応
- ・ FOMAハイスピードエリアでは受信時最大3.6Mbpsの高速データ通信が可能
- ・ 国際ローミング対応で、78(\*)の国・地域でパケット通信を利用できる
- ・ 音声通話やテレビ電話にも対応

\* 2006年7月現在



「mopera U」や、企業向けネットワークサービス「ビジネスmopera」。空港、地下鉄、カフェなど様々な場所からインターネット等の高速データ通信を利用することができる公衆無線LANサービス「Mzone」。そして、様々な機器への組み込みが可能な無線パケット通信モジュール「FOMAユビキタスモジュール」などがあげられます。

また今年の5月に、HSDPAに対応したカード型FOMA端末「FOMA M2501 HIGH-SPEED (M2501)」を開発したことを発表しました。HSDPAは、FOMAなどが採用しているW-CDMA方式のデータ通信速度を高速化した規格で、現在の第3世代携帯電話（3G）の改良版であることから「3.5G」とも呼ばれています。このM2501は、PCMCIA Type II規格に準拠したカード型端末で、PCのカードスロットに挿入して高速データ通信を行うことができます。また、HSDPAをはじめ、W-CDMA、GSM、GPRSの各通信方式に対応しているので、国内外において幅広いエリアで利用することが可能です。このようなプロダクトが進化することで、これまでオフィス内でしかできなかった高速データ通信を利用した業務をオフィス外でもできるようになります。

### 利用シーンをイメージすることが大切

—携帯端末の周辺は常に新しい技術が登場していますので、それを見極める能力が求められると思いますが。

**徳広** 開発とは、大きく客観的な考え方に基づいたものと、主観的な考え方に基づいたものとに分けられると思います。私はどちらかという、主観的な考えに立つ

て開発を進めています。それは、自分が使いやすいもの、自分が求めていたものでなければ、誰もその技術を必要としないと思うからです。その技術が採用されて、それがどのように利用されるのか、そのシーンをイメージできるかどうか、技術を選ぶポイントになると思います。

また当社は、端末とネットワークとプラットフォームの三位一体でお客様にサービスを提供しています。端末の機能とネットワークの機能並びにプラットフォームの機能で、おのおの全体的に最適な機能配分ができるため、お客様に大きな満足感や安心感を与えることができます。ですから、満足感や安心感などのお客様が発信するシグナルを聞き分けて、それを端末やサービスに反映させていくことが大切だと思います。

### 根っ子の技術が進化を繰り返している

——現在、生活の中、あるいは日々の業務の中で注力している技術はありますか。

**徳広** 技術を役割別に1本の木として捉えた場合、私はその木の根っ子の部分を注目します。根っ子の技術が進化を繰り返しているからこそ、その上の幹が大きく育っているのです。この根っ子の技術の代表として「ムーアの法則」があげられます。これはインテル社の創設者の一人であるゴードン・ムーア博士が、1965年に提唱したもので、要約すると「半導体素子に集積されるトランジスタの数は、24ヶ月と3日で倍増する」という経験則による半導体技術の進歩に関連した予測です。この法則は、科学的な根拠のある技術的な法則ではありませんが、半導体業界は、この法則を自己実現的予言として



株式会社NTTドコモ  
プロダクト&サービス本部  
執行役員  
ユビキタスサービス部長  
徳広 清志氏

ロードマップに利用して、急速な発展を続けるためのドライビングフォースにしてきました。41周年を迎えた現在も、この法則はまだ有効であります。2020年前後に物理的な法則によって限界を迎えるであろうと予測されています。

世の中で「定番商品」と言われているものは、絶え間ない改良改善が繰り返されています。当社が提供してきたプロダクトやサービスも、日々改良が加えられています。1つの技術を従来と異なる側面から見た場合、あるいは誕生から時を経て見てみた場合、新しい発見があるかもしれません。根っ子の技術は、このようにして進化を繰り返しているのではないのでしょうか。

——本日は、ありがとうございました。

(聞き手：本誌副編集長 菊地勝由)